

	開催日	催し物名・観覧時間	入場方法	主催者(問い合わせ先)
10月	8(水)～ 13(月祝)	アール・ブリュットみたか2025 メイン会場 第1・2展示室 観覧時間:10:30～18:30(初日は13:00から、最終日は16:00まで)	無 料	三鷹市・(公財)三鷹市スポーツと文化財団 アール・ブリュットみたか連携協議会事務局 三鷹市芸術文化センター 0422(47)9100
	28(火)～ 11/2(日)	第72回三鷹市市民文化祭 美術展 第1・2展示室 観覧時間:10:00～17:00(最終日は16:00まで)	無 料	三鷹市・市教育委員会・市芸術文化協会 三鷹市美術連盟 0422(45)5568 岡本
	11(火)～ 16(日)	第72回三鷹市市民文化祭 書道展 第1・2展示室 観覧時間:10:00～17:00(最終日は16:30まで)	無 料	三鷹市・市教育委員会・市芸術文化協会 三鷹市新書道連盟 090(7175)5824 野水

## 企画展示 三鷹市所蔵 太宰治資料展

本館展示室  
三鷹の北のふいふ

Ⅱ期 ～交流編～ 11月16日(日)まで開催中

観覧無料

太宰治の自宅には、同じ文筆業の先輩や友人、弟子はもちろん、編集者、画家、学生が訪れ、書斎兼応接間の六畳間で文芸や美術に関する談議を重ねました。太宰作品には、彼らとの交流が描かれているものが多くあります。

Ⅱ期交流編では、太宰と文化人たちの交流を物語る資料を公開します。

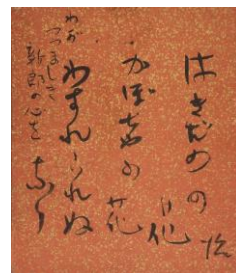
★昨年三鷹市が購入した、直筆原稿「雀」の後半頁も初公開します。

観覧時間:午前10時～午後6時

休館日:10月 6、14、15、20、21、27日

11月 4、5、10日

太宰治 田中英光宛色紙 ▶  
昭和12年 (津島家寄託)  
太宰が田中英光の結婚祝いへ贈ったもの。



## 展覧会のご案内

## 日本の色 染司よしおか そめのつかさ 吉岡更紗の仕事

2025年11月29日(土)～2026年2月1日(日)

- 【会場】 三鷹市美術ギャラリー  
 【開館時間】 午前10時～午後8時(入館は午後7時30分まで)  
 【休館日】 月曜日(1月12日は開館)、1月13日(火)、年末年始(12月30日～1月4日)  
 【観覧料】 一般800円 / 65歳以上、学生(大・高)500円 / 中学生以下無料  
 障害者手帳等をお持ちの方と付添の方1名は無料  
 【主催】 三鷹市美術ギャラリー・(公財)三鷹市スポーツと文化財団  
 【特別協力】 染司よしおか 【企画協力】 青幻舎プロモーション

「染司(そめのつかさ)よしおか」は江戸時代から200年以上続く京都の染色工房です。日本に古くから伝わる植物染めの技法を用い、草木や花から美しい色を引き出し、麻、絹、木綿、和紙といった自然素材を染めることを生業としてきました。また、古社寺との関わりも深く、東大寺修二会(しゅにえ)に用いられる造花の椿を作るための和紙の染色を担うなど、伝統行事を支えてきました。

日本の染色の歴史は古く、植物を用いた染色は縄文時代までさかのぼります。奈良時代には大陸から本格的な技術が伝わり、より洗練された染色文化が育まれました。しかし、明治時代になると西洋から伝わった化学染料が急速に普及し、植物染めは衰退していきます。時代の変遷のなかで伝統的な技術が失われつつあることを危惧した五代目・吉岡幸雄は、植物染めを復活させ、「日本の伝統色」を現代によみがえらせました。

本展では、薬師寺の伎楽(ぎがく)装束など古社寺の伝統行事にかかわる復元作品や『源氏物語』の衣裳の再現作品などを通して、「染司よしおか」の仕事をたどります。そして、その歩みを引継ぎ、植物染めによる色彩の美しさを探求しながら染色の新たな可能性を切り拓く六代目・吉岡更紗の取組みをご紹介します。



『源氏物語』「桐壺」 桐の襲再現



- ・この催し物案内は、2025年9月18日にとりまとめたものです。
- ・内容、期間、時間、入場方法等は変更になる場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- ・各催し物の詳細については、主催者までお問い合わせください。